表紙

教育塔 須田先生 全四巻

表紙 裏

【 1 頁】

教育塔須田先生

全四巻 三七五米

台湾総督府

Q第八三一号

検閲済

有効期間

至昭和二一年一〇月一二日自昭和一八年一〇月一三日

規則第十条第二項ニ依リ 活動写真「フィ ル ム」検閲

手数料ヲ免除ス

2頁

【3頁】(1頁)

教育塔 須田先生

梗概

塔に祀られてある須田久徳訓導のお話をする その物語の中に 大阪城の前にある帝国教育会建立の教育塔の前へ 母親が子供を連れて来て其の教育

職中の夏六月児童を連れて柏原海岸で水泳中溺れる三人の学童を救助したが須田訓導は遂 に犠牲となって殉職する 須田訓導の生地 出身校 家庭 学校奉職中の日常等が現はれ 柏原尋常高等小学校奉

*教助されし児童の先生への感謝!涙ぐましい師弟愛の

【4頁】(2頁)

事実物語の映画化である

字幕

- 1. 教育塔 須田先生 提供 奥商会教育映画部
- 2. 制作 長谷川与三松

撮影 岸稚夫

演出 中川紫朗

須田訓導 桜井勇

訓導の父 天野栄太郎

訓導の姉 林民子

【 5 頁】

訓導の弟 西紫光

夫人 生野初子

- この教育塔には職務のために犠牲となってたほれられた先生や
- 5. 不慮の災難で死んだ不幸な子供達の霊が祀ってあります
- **6A.** この塔に祀られてゐる須田先生は鹿児島県の人でした
- 6 B. 地図
- 須田先生の御名前は久徳とい って景色の美しい 柏原といふ所で生れました
- 8. 柏原には大塚古墳を始めたくさんの古墳があり
- 土地の人々は昔から敬神の念に厚く又公共心に富む模範村でした
- $\stackrel{1}{\overset{0}{\cdot}}$ 先生は大正十五年三月 柏原尋常高等小学校を優等の成績で卒業せら ñ

【6頁】(3頁)

- 11. 鹿児島師範学校へ入学されました
- $\overset{1}{\overset{2}{\cdot}}$ 師範学校に入学されてからは成績も良く殊に武道に熱心でした
- 13. 又動物や植物を調べることには興味を持ち
- 14. 卒業の頃は貝類の研究に熱中してゐました
- .1 .5 やがて五ヵ年の師範学校生活を終へて優秀なる成績で卒業され郷里の人となる日が

来ました

- 16. 先生の喜びは如何でしたでせう
- 17. 郷里の家には年老いた父
- 18. 母なき後を守りつつ小学校に勤めて居られる姉
- .1 .9 それに弟の久雄さん健太郎さん妹の千鶴子さんがありました

7 頁

20 これらの家族の 人達がどんなに先生の帰郷を待って居られるかを胸に思ひ浮べなが

第二巻

- 先生は最初柏原から三里離れてゐる串良小学校に御勤めになりました
- たことはありません 柏原から三里の道を毎日自転車で往復されましたがどんな雨風の日でも一日も休まれ
- た .3 さうして熱心に子供達を教へてゐましたが特に剣導や体操には力を入れ て居られまし
- た 4 先生は子供達を我が子のやうに可愛がってゐましたので子供達も先生を慕っ てゐまし

8頁】(4頁

- .5 土曜日の放課後等は先生の御宅へ来て畑の仕事の手伝いをしたり
- 6. 採集の助手を務めたりしました
- だったでせう 二年後父上はふとした病でなくなられました 孝心の深い先生のお嘆きは如 ば n
- 8. "ねえさんに何を感謝してよいか御礼の言葉がありません!
- これからもくれぐれもお願ひします」 「ねえさんはおかあさんの代りをして父に仕へ幼い弟や妹を育てて下さったのでした
- 行きませう それが両親への何よりの孝行です」 10. 「何事も運命とあきらめねばなりません 兄弟五人力を合せて須田家をよく守って
- $^{1}_{\cdot}$ 「ねえさんのお言葉を聞いたでせう兄弟仲良して須田家のため一生懸命尽しませう

9 頁

- て一生懸命働いて居られました 12. 姉のミツギは一家のため三十歳になるまでお嫁入もせず父母なきあと家事を引受け
- .1 .3 先生は重なる一家の不幸にも力を落さず学校では快活に子供達を教へて居ました
- 当の教育をするために一心になって居られました $\overset{1}{\overset{4}{\cdot}}$ 先生は子供一人一人とよく話し合ったり家庭を訪問して家の事情を調べたりして本
- した .1 5 殊に出征兵士の家庭へは子供達を連れて行って慰問をしたり農業の手伝ひ等をしま
- 16. 又戦死者のお墓掃除もされました
- $\overset{1}{\overset{7}{\cdot}}$ を集めたりしてゐました 貝類の研究はその間もずっと続けられて暇があると採集をしたり又陸 (D) まい

【10頁】(6頁)

- 際天覧を賜り御嘉納の栄を賜はりました .1 .8 串良小学校の裏庭で発見せられたオホスミウロコマイマイは昭和十年鹿児島行幸の
- 19. 先生が生れ故郷の柏原小学桟へ転任されたのは夏の六月のことでした。

第二巻終

第三巻

- "先生暑いから水泳にやって下さい"
- .2 "みんな行きたいか"
- .3 "はい みんな賛成です"
- .4 "さうか では連れて行かう"
- .5 "男子の方は水泳に行きたいといふから連れて行く 女生徒はここでしばらく

の間練習してゐなさい"

- 6. "男生徒 集れ"
- は帰ってもよろしい" "これから水泳に連れて行く しかし今はおうちの忙しい時であるからお伝をする人
- "先生 僕は帰ります"
- "君はおかあ様が居られるだけだな"
- $\overset{1}{\overset{0}{\cdot}}$ "はい"
- $\overset{1}{\overset{1}{\cdot}}$ "感心だ 帰ってお手伝をしなさい"
- $\overset{1}{\overset{2}{\cdot}}$ "そうか それだけかぢやお帰りなさい"
- .1 .3 "ああして家の手伝をする感心な人もあるから ただ水泳して遊ぶといふ

12頁

やうな気持でなく"

- $\overset{1}{\overset{4}{\cdot}}$ "海国日本人として身心を鍛へるために水泳に行くといふ気持でなければなりませ
- .1 .5 "左向け左"
- $\overset{1}{\overset{6}{\cdot}}$ "かけ足"
- $\overset{1}{7}$ "ここは潮流がはげしいからあまり遠くへ行ってはいけませんよ"
- .8 "先生、先生 あそこに三人溺れかかってゐますよ、 先生 先生"
- .9 "えつ 溺れかかってゐる?"
- 20 "あっちへ連れて行け"
- "船頭さん 助けてー"

【13頁】(7頁)

第四巻

- "先生はやっと最後の子供を助け上げたが遂に力つきて水中に没してしまった"
- 2. "先生 先生 須田先生が見えないよー"
- 3. "先生が 見えないよー"
- 4. "先生 先生 須田先生が見えないんです"
- 5. "先生が見えません 須田先生が見えません"
- 6 須田先生がなくなられたといふ報せを受けて姉はびっくり してかけてこられました
- 7. 附近の漁船が集って網を入れて先生を探しました
- 8. "先生!須田先生!!"

[14頁]

- 9. "先生!須田先生!!"
- $\stackrel{1}{\overset{0}{\cdot}}$ 夕陽が西の海に落ちる頃 やうやくにして痛々しい先生の屍は引上げられました
- た。 .1 .1 "先生は須田家にとって全く大黒柱でした 姉を助け弟や妹を育てる大切な人でし
- ました $\overset{1}{\overset{2}{\cdot}}$ しかし職務のために自分のことを考へてゐるひまもなく 敢然として死地につかれ
- .1 .3 先生によって助けられた三人の子供達は先生の墓にお参りしました
- 14. 姉は先生なき後の須田家を守るべくかたく決心しました
- .1 .5 この痛ましくも尊い心の持主であった先生を永久に記念するために立派な

1 5 頁

銅像が母校の庭に建てられました

って居られるのであります .1 .6 この須田先生の霊は大阪市の大手前にある教育塔に祀られて永く永く教育界を見守

終

【データ採録者:福田隆宏】

【データ校正:笠原亮介】